労災かわらばん 2007 ―夏号―

Vol.21　発行日／平成19年7月31日　編集／釧路労災病院新聞局

外来紹介 Part19
笑ってこらえて薬剤部
釧路労災病院薬剤部の旅へようこそ

薬剤部 副部長 貝出恒司

平成19年○月△日朝8時、前の日に発注された大量の薬品が納品されようとしている。会計課のT君が検収し終えると所定の場所に並べられる。おっと電話のベルがいきなり鳴りだした。宿直だった薬剤師のA君、眠そうな目をこすりながら口には歯ブラシをくわえ受話器をとる。○階西病棟の薬剤部で混合予定の点滴が中止となった連絡である。ぼつぼつ、他の薬剤師も出勤し始めた。またまた電話が鳴る。今度は△階西病棟から「今朝から行く点滴が病棟に上がってないのですが。」薬剤師A君「調べて折り返しお電話します。」ふと、薬品ボックスを見るとそこにはまさしくその点滴が収まっている。「ボックスに置きっぱなしになっていますよ。」少しご機嫌斜めである。こんなふうに薬剤部の1日が始まった。

注射薬を担当している主任薬剤師Bさん、外来から急ぎの薬品請求がありいきなり走りだした。「ヒェー、何でこんな薬が急に動き出すの。もー。」さっそく薬品卸問屋さんに電話をする。「本日の発注お願いします@@注射一本大至急届けて下さい。」そばにいた薬剤師C君「エー、たった一本かい？」Bさん「当たり前でしょ。一本5万も6万もする注射、三本も四本も在庫できないしょ。会計になに言われるか。」8時45分無菌室に入る薬剤師が着替えを始める。無菌室は非常に清潔な環境になっているため特殊な服に着替えて入室しなければならない。調剤室では臨時処方が薬袋プリンターからどんどん印刷されて出てくる。電話が鳴る「□階東ですが、朝から飲ませる薬を至急あげて欲しいのですが。」たちまち臨時処方の中から探し出されて調剤されエアーシューターで搬送される。抗がん剤の混合指示箋が薬剤部に出力され混合のゴーサインが出始めると、再びBさんは大忙しとなる。現在、薬剤部で1日に混合される抗がん剤は多い時で26件、少ない時でも10数件はあり、これらは全て投与計画のもとに混合され、Bさんの最終監査を受けて払い出される。注射の電話が鳴った。「△階東の○○さんの抗がん剤混合まだでしょうか？」Bさん「エー、まだ先生ゴーサイン出してないよ。」早速、先生をポケベルで呼び出している。調剤室では1包化指示のある処方箋が出力され、自動錠剤分包機が動き出した。神経内科90日分の処方である。たちまち分包機は一時停止して錠剤の充填を要求してくる。院外処方が大部分を占めるようになった今、かつてのようなバラ包装を購入する事も無くなり、100錠単位の小包装の薬品をバラさなければならない。今度は調剤室の電話が鳴る。「内科外来です。△△さんの処方の訂正をお願いします。」修正内容を医事課へ連絡し終えると今度は調剤薬局から疑義照会の電話が鳴り始める。「整形外科の院外処方箋のシップ薬はどこに貼ったらいいでしょうか？」更にカウンターのチャイムがピンポンパン、笑顔で「はい、どうしました？」「院外処方箋のFAXが故障している。」行ってみると用紙切れのサインが点灯し大量にコピーされた処方箋が出力されていた。

さて、注射の払い出しはどうなっただろう。普通、月曜日から水曜日は一日分木曜日と金曜日は二日分ずつ払い出される。オートアンプルディスペンサー（ADD）は注射薬を個人別にセットして払い出す。この機械は少々やっかいで以前は度々ストップして我々を困らせたが、最近はようやく順調に動いてくれている。無菌室からはそろそろ薬剤部で混合された点滴が出てくる時間となる。注射箋と混合された薬品が間違いないか、ラベルは間違いなく貼られているか、異物は混入していないか等、最終監査をして払い出す。またまたB先生「外来の☆☆さんのゴーサインまだでてない。」外来化学療法室に電話して確認する。「何、まだ診察が済んでない、何とかしてよ。」このように薬剤部の午前中はアッという間に過ぎていく。午前中、病棟で服薬指導してきた薬剤師のEさんが大きなレジ袋を持って帰ってきた。入院した患者さんが持参した薬がびっしり詰まっている。テーブルの上で広げてみる。「何この薬、いつから服用している薬か全然わからないよ。」見た感じでは数種類の錠剤は全てバラバラに切り離され、その数もまちまちのようだ。おもむろに同じ種類の薬を集めだし10錠ずつの塊にしていく。「えーと、1日3回服用だから、これで10日分。あれ、こっちの薬は8日分しか無いじゃない。」まるでパズルである。30分後、ようやく全ての薬の名前と数量が調べられた。ふと、注射の棚を見ると何とBさんが棚をよじ上っているではないか。注射薬が並んでいる棚の最上段は彼女の身長を遥かに超えているわけで、身軽な彼女としてはどうしてもそうゆう状態になるのだ。調剤室のカウンターでは缶入りの栄養剤を患者さんが取りにみえている。その量は3ヶ月分で1箱24缶入りの薬剤が5ケースになる。すごく重くてとても1人で持ち運べる量ではなく、キャスター付のショッピングカートを持って来てもらいそれに積み込み正面玄関のタクシーまで運ぶ手伝いをする。病院にかかるにもある程度、体力が必要である。気が付くと午前11時30分、そろそろお腹もすいてきたところにまたまた電話。「今、病棟にあがってきた点滴ですが指示が変更になっていまして。…」Bさん受話器を持ったまま固まっている。「何で早く中止の連絡をくれないの。もー。」いったいこの点滴はどうなるのでしょうか？

①破損伝票を書いてもらい処分する。
②翌日の点滴から同じ内容の注射を探して利用する。

もうお分かりですね。答えは②番、薬剤部はできるだけ無駄にならないように努力しているのです。

午前11時30分から早番は昼食を食べ12時15分まで昼休みです。ちなみに遅番は12時30分から昼休みです。

このへんで、笑ってこらえて薬剤部、午前の部おわりにしたいと思います。

労災病院ドクター紹介 Vol.16

①職種・氏名
②生年月日・血液型
③出身地
④専門・得意分野
⑤趣味等簡単な自己紹介・患者さんへ

河合　朋昭　先生

①外科部長
河合　朋昭
②昭和42年12月22日
AB型
③岩見沢市
④外科・消化器外科一般
⑤釧路での勤務は初めてです。美味しい魚貝類を食べられるので、刺身が好きな私にとっては嬉しい限りです。外科医としてこれまでの経験を生かしつつ、皆様のお役に立てればと思います。宜しくお願いいたします。

浅野目　充　先生

①耳鼻咽喉科部長
浅野目　充
②昭和43年5月23日
B型
③釧路市
④耳鼻咽喉科一般
⑤高校卒業以来、20年ぶりに釧路に帰って来ました。釧路地方の地域医療に少しでも貢献できればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

久田　幸由　先生

①整形外科副部長
久田　幸由
②昭和42年5月19日
O型
③千葉県
④肩関節・上肢の外科
⑤平成19年4月より当院に勤務しております。肩から指までを専門に診療しております。五十肩や、肘・手の痛みなどでお悩みの方がいらっしゃいましたら、お気軽にご相談下さい。